

READYFORインパクト研究所

構造的な課題解決に向けた、 個人の支払意思（WTP）活用と エコシステムの形成

アプローチの提案

2026年8月発行

本資料の位置づけとサマリー

本資料の位置づけ

- 本資料は、人口減少下において、社会課題を解決し持続可能な社会を構築する手段として、寄付が果たし得る役割について、2025年9月より研究した成果をまとめたものである。
- 共同研究者である国際文化会館 馬田隆明氏との継続的な議論や、行政、ビジネス、ソーシャルセクターの約150名の有識者との意見交換に基づき、当研究所の文責にて取りまとめた。
- なお今回の研究成果は、以下の二部構成にて公表している。
 - ・「背景の整理」：課題が解決されにくい背景と寄付の活用の可能性を提示
 - ・「アプローチの提案」（本資料）：構造的な課題解決に向けた具体的な実践プロセスや、エコシステム形成のポイントを提案
- 様々なセクターで地域や現場の課題の解決に挑む方々をはじめ、多様なステークホルダーと、今後の寄付のあり方を探り、対話を深めるきっかけとなることを期待している。

エグゼクティブ・サマリー

- 「課題の谷」を埋める手段として寄付を活用する際は、個人の想いを顕在化し集積すること、構造的・持続的に課題解決に挑むこと、行政やビジネス等の多様なリソースと接続しコレクティブに取り組むこと、が重要なのではないかと。
- 個人の想いの集積は、必ずしも社会全体にとって最優先の課題と一致するとは限らない。適切な情報の提供やデューデリジェンス、資金の再分配機能を備えたエコシステムを整えることで、その乖離に対応することが求められるのではないかと。

READYFORインパクト研究所

構造的な課題解決に向けた、 個人の支払意思（WTP）活用と エコシステムの形成

アプローチの提案

目次

01 個人の支払意思を課題解決に 繋げるには

P.04

02 個人の支払意思の集約と 社会の効用の最大化

P.29

01

個人の支払意思を課題解決に繋げるには



本章の問題意識

行政やビジネスでアプローチしにくい「課題の谷」について、個人の支払意思（WTP）を顕在化し、寄付の力で根本的な課題解決につなげていくことを検討する。具体的には、以下の3つの視点について検討する。

Step1

WTPを課題解決の資源として活用する

個別のWTPがバラバラに散在した状態では、課題解決には繋がらない恐れがある。WTPを顕在化・集積させ、課題解決のための資源に転換して活用する。

Step2

課題解決に、構造的・持続的にアプローチする

「課題の谷」を埋めるための構造的アプローチと、それを支える持続的なWTPのマネジメントに取り組む。

Step3

行政・ビジネスと連携し、より大きな課題を解く

ビジネスや行政の活動と接続したり、異なるWTPを組み合わせたりして、コレクティブな形でより大きな課題を解いていく。

Step1：WTPを顕在化させて課題解決のリソースとして活用する

個別のWTPがバラバラに散在した状態では、課題解決には繋がらない恐れがある。WTPを顕在化・集積させ、課題解決のためのリソースとして活用する方策について整理する。

Step1

WTPを課題解決のリソースとして活用する

個別のWTPがバラバラに散在した状態では、課題解決には繋がらない恐れがある。WTPを顕在化・集積させ、課題解決のためのリソースに転換して活用する。

Step2

課題解決に、構造的・持続的にアプローチする

「課題の谷」を埋めるための構造的アプローチと、それを支える持続的なWTPのマネジメントに取り組む。

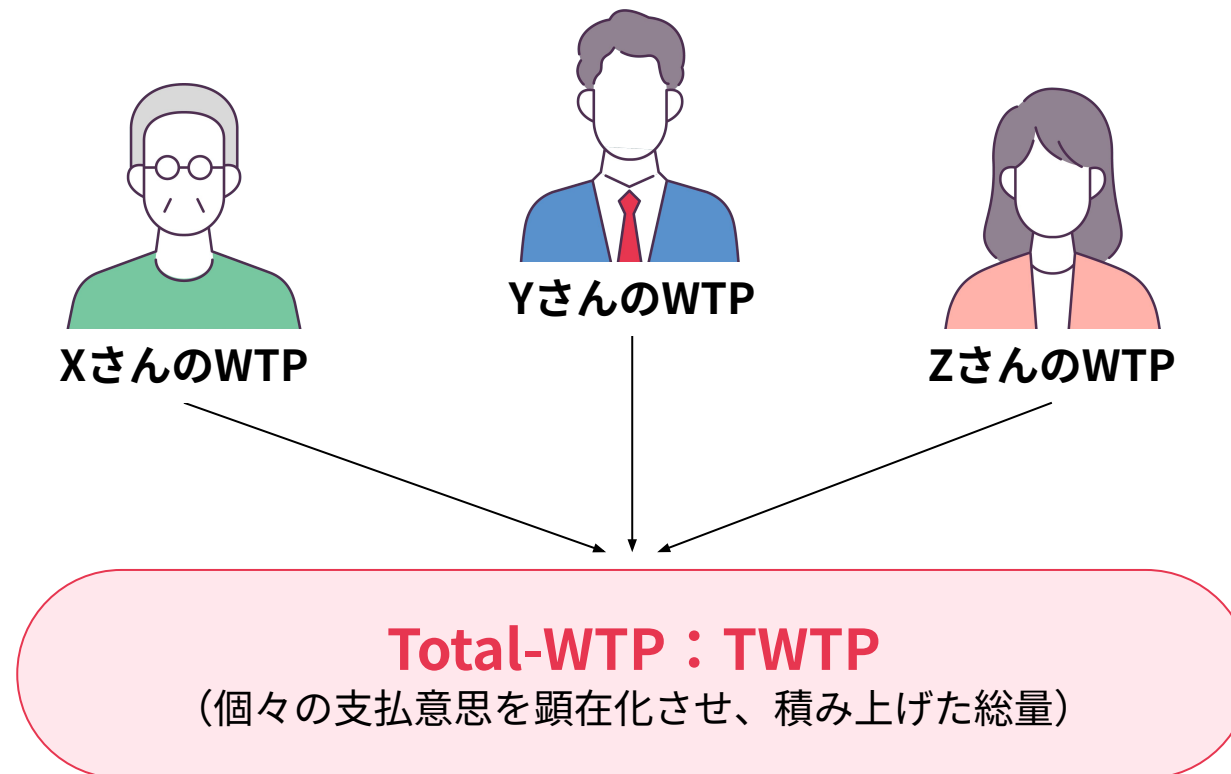
Step3

行政・ビジネスと連携し、より大きな課題を解く

ビジネスや行政の活動と接続したり、異なるWTPを組み合わせたりして、コレクティブな形でより大きな課題を解いていく。

バラバラに存在するWTPを集積させる

WTPを課題解決に繋げる上で、個々のWTPが散在してはリソースとして活用できない。
共通の価値やアジェンダのもとにWTPを集積させる必要がある。
この集積させたWTPの総量を「Total-WTP (TWTP)」と定義する。



TWTP顕在化のアプローチ①自分事としての文脈設計

その人の持つWTPに合った形で、自分事として受け止め、参画できる文脈を設計することで、固有のWTPを顕在化させる。

事例 災害派遣トイレネットワークに対するWTPの顕在化



取り組みの概要

各自治体が寄付等を活用してトイレトレーラーを配備し、災害時に全国で相互派遣し合う仕組み。

どのように「自分事としての文脈設計」がなされているか

一般的な「全国の防災」ではなく、「**あなたが暮らす東京都小平市が加入することで、ご自身や親族が被災したときの備えになる**」など、身近で**具体性のある文脈を整理**することで、当事者意識が喚起され、WTPが顕在化しやすくなる。

画像出典：[小平市が災害派遣ネットワークに参加、市民の命と尊厳を守る！](#)（READYFOR）

TWTP顕在化のアプローチ②想いを喚起するプロジェクトの提示

WTPの受け皿となるようなプロジェクトを適切なタイミングで提示することで、WTPは顕在化されやすくなる。

事例 「将棋会館の建て替え」というプロジェクトの提示により、WTPが顕在化したケース

日本将棋連盟による、新将棋会館建設プロジェクトへの寄付者から寄せられたコメント



他に1個のプロジェクトを支援中! 22/06/22

毎日のように日本将棋連盟に所属の棋士の先生方の対局を楽しませて頂いているのに、これまでに自分が払って来た対価は月に486円だけでした。この機会に恩返しが出来ると考え、少しでもまとまった額を新将棋会館建設プロジェクトに寄付させて頂きました。日本将棋連盟のますますの発展を心より期待しております。

寄付としてWTPが顕在化した背景

- この寄付者には将棋文化に対する大きなWTPがあったと考えられるが、実際の支払として顕在化していたのは月486円のみであった（※将棋連盟が提供するアプリの月会費と想定される）
- 「新将棋会館建設」というプロジェクトが現れたことで、眠っていたWTPが大きく顕在化した。

TWTP顕在化のアプローチ③根本解決に向けた仕組みの提示

根本解決に向けたアプローチを提示することで、「このアプローチであれば課題が根本的に解決するかもしれない」という納得感や未来への期待が引き出され、WTPが顕在化されやすくなる。



事例 渋沢敬三による民俗学研究の環境整備

社会背景

日本では民俗学、特に生活の中にある道具が重視されておらず、貴重な資料が散逸の危機にあった。

渋沢敬三が行った仕組みの提示

自宅に「アチック・ミュージアム」と呼ばれる研究拠点を設立し、当時は若手研究者だった宮本常一を資金面で支えるなど、**人材育成のための環境整備**に取り組んだ。さらに「民具」という概念の提唱を通じて、**後進の研究のための学術的基盤を整える**ことに貢献した。

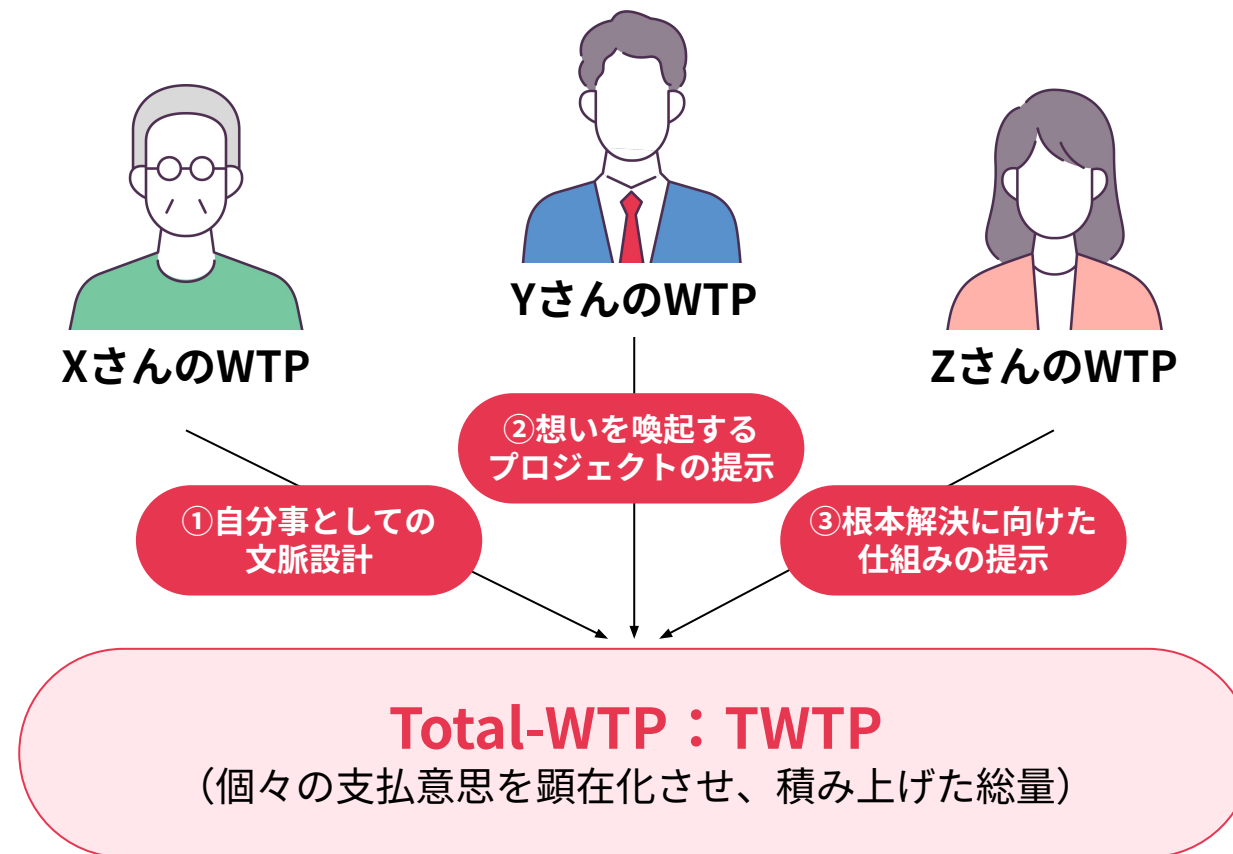
本事例から得られる示唆

個別の研究や資料の保存に留まらず、**「この仕組みがあれば民俗学研究が大きく前進する」という納得感や未来への期待が刺激され、WTPが顕在化**。後世に渡り民俗学が発展する土壌が作られた。

画像出典：写真AC

TWTPとして顕在化させるアプローチは多様

潜在的なWTPを顕在化させ、TWTPとして集積させるアプローチは多様である。①自分事としての文脈設計、②想いを喚起するプロジェクトの提示、③根本解決に向けた仕組みの提示など、人それぞれ固有のWTPに合った形で顕在化させることが重要である。



TWTPの回収：活用可能なリソースへの転換

TWTPが顕在化しても、課題解決の主体に届かなかかったり、主体が存在しなかったりすると、課題の解決に繋がらない。解決の主体がWTPをリソースとして回収する仕組みを整えることが必要となる。

事例

観光地の自然保全を望むTWTPの回収



解決主体がTWTPを活用できない例

ある地域を訪れる観光客は、美しい自然を見るために様々なお金を支払うが、その多くは移動・宿泊・飲食といった周辺サービスに流れてしまい、環境保全の活動に直接届かない。

リソースとして活用するための仕組み例

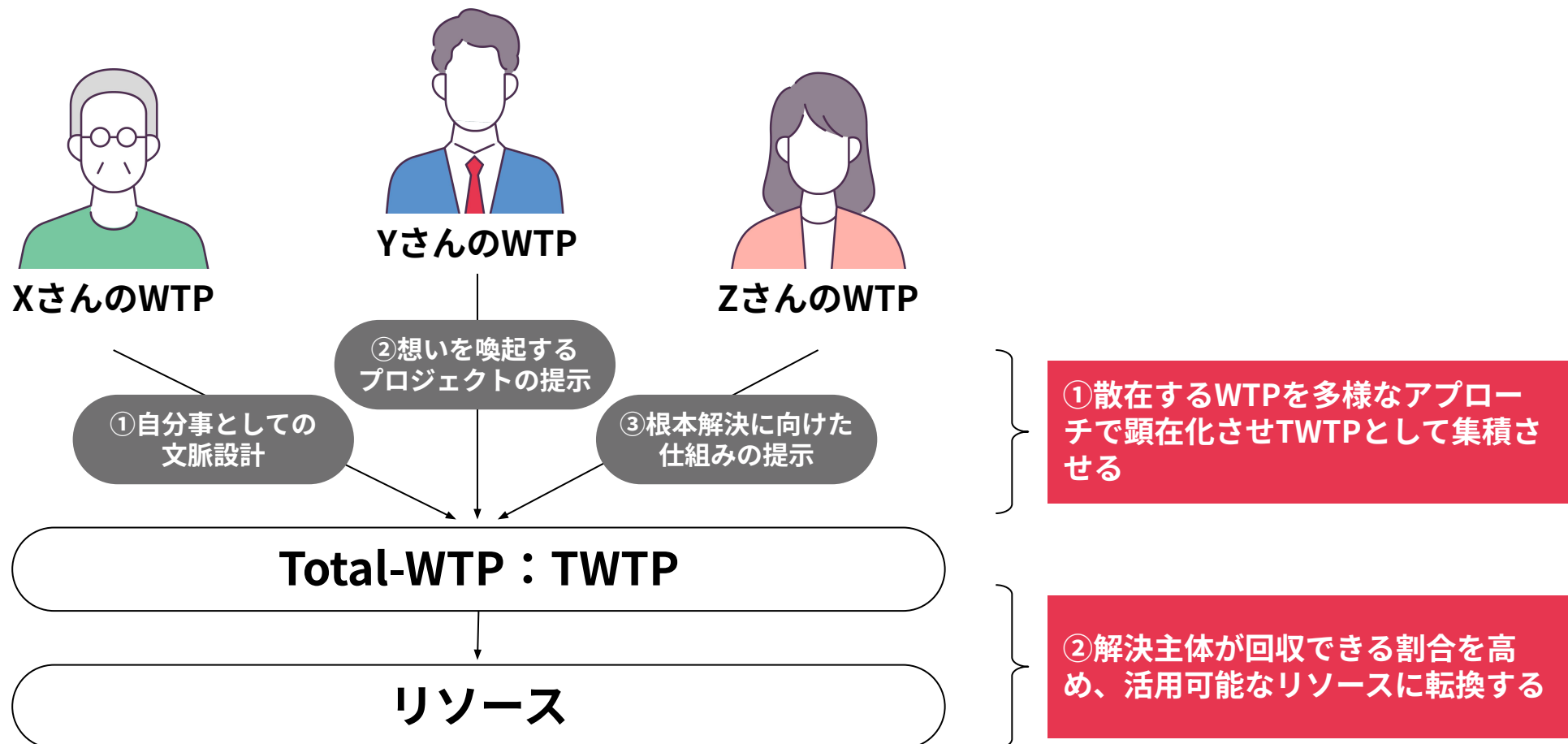
- 公園の管理者が主体となって、入山料の形で、環境保全費用を回収する
- 環境保全団体が探訪ツアーを企画し、対価の一部を寄付として環境整備の活動に充当する

画像出典：[Willingness to Pay 個人の想いが投資的寄付の源泉になる](#)（READYFOR note）

Step1のまとめ

WTPを顕在化させて課題解決のリソースとして活用するためには、以下の2点が重要ではないか。

- ① 散在するWTPを多様なアプローチで顕在化させ、TWTPとして集積させること
- ② 解決主体が回収できる割合を高め、活用可能なリソースに転換すること



Step2：課題解決に、構造的・持続的にアプローチする

「課題の谷」を埋めるため、一時的な取り組みではなく構造的アプローチをとること、それを継続的に支えるWTPのマネジメントに取り組むことについて、整理する。

Step1

WTPを課題解決のリソースとして活用する

個別のWTPがバラバラに散在した状態では、課題解決には繋がらない恐れがある。WTPを顕在化・集積させ、課題解決のためのリソースに転換して活用する。

Step2

課題解決に、構造的・持続的にアプローチする

「課題の谷」を埋めるための構造的アプローチと、それを支える持続的なWTPのマネジメントに取り組む。

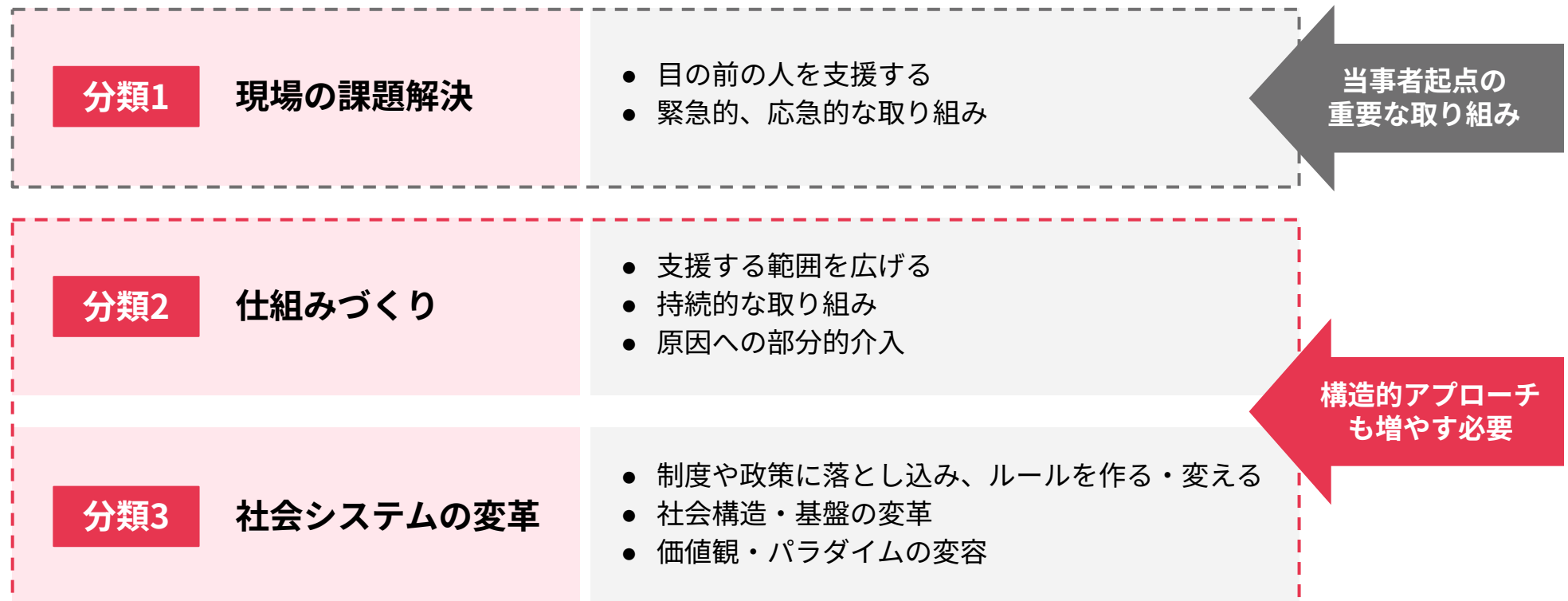
Step3

行政・ビジネスと連携し、より大きな課題を解く

ビジネスや行政の活動と接続したり、異なるWTPを組み合わせたりして、コレクティブな形でより大きな課題を解いていく。

課題解決に構造的にアプローチする：課題解決の3分類

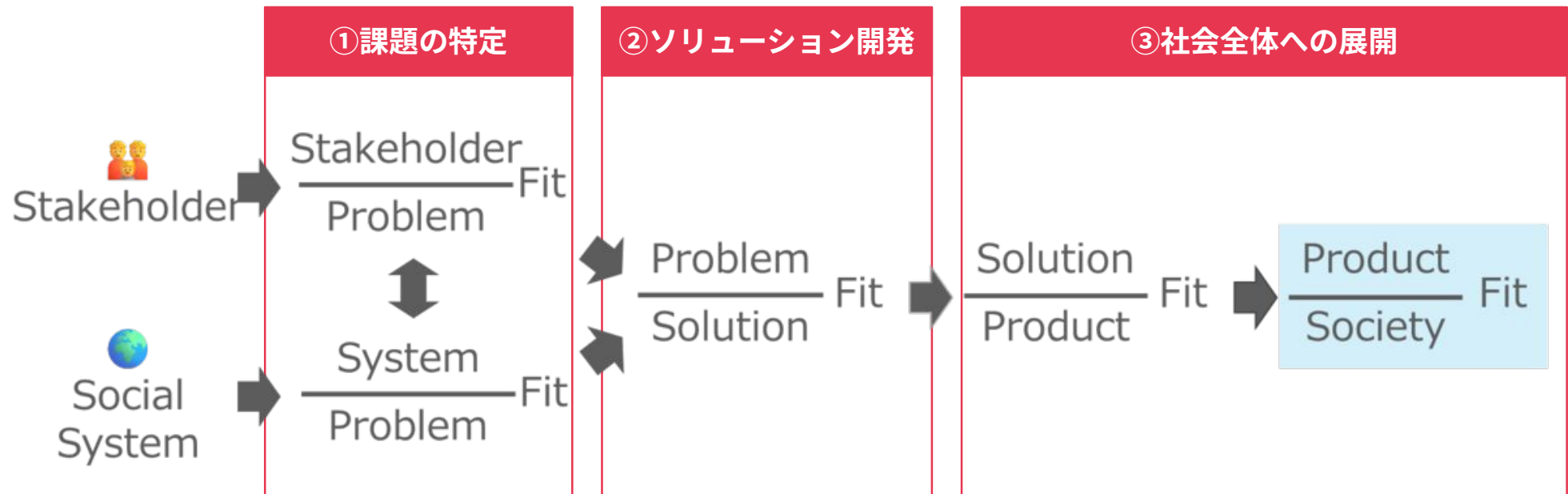
WTPを活用した課題解決は、多くの場合、当事者の切実なWTPをベースにするため、現場レベルの課題解決（分類1）のアプローチがとられることが多い。今まさに困っている人を支援することは重要な取り組みだが、「課題の谷」を埋めるためには、分類2や分類3のような構造的なアプローチも必要になる。



出典：[本当に、寄付が社会を変革する日は来るか。課題解決に向けた3つのアプローチ](#)（READYFOR note）

課題解決プロセスの設計

仕組みづくり（分類2）や、社会システムの変革（分類3）にあたっては、誰の何の困りごとを、どのリソースを活用して解決し、どう展開していくかの整理が必要である。その際、活用できるTWTPを意識して設計することが重要となる。



出典：馬田隆明氏ブログ「[非営利組織のプロダクト・ソサエティ・フィット \(PSF\) とそのジャーニー](#)」を基に、READYFORインパクト研究所で一部加筆

「投資的寄付」の必要性

課題解決プロセスの中で、特に、①課題の特定や②ソリューション開発といった上流工程は不確実性が高く資金が流れにくい。WTPをこうした領域に「投資的寄付」として活用していくことで、構造的な課題解決につながる。

■ 課題解説プロセス



特に不確実性の高い上流工程では、
その試行錯誤を支える**リスクファイナンス**が重要

しかし既存の寄付は・・・

当事者の切実なWTPをベースにするため、現場レベルの課題解決（分類1）のアプローチがとられることが多く、上流工程を支えるリスクファイナンスとしては機能しにくい状況にある。

分類2や3の構造的課題解決の上流工程を支える**「投資的寄付」**が求められる。

出典：[「投資的寄付」～社会課題の根本解決に向けた戦略的投資～](#)（READYFOR note）

構造的アプローチを支え続けるためのWTPマネジメント

分類2や3の構造的アプローチは成果創出に時間がかかるため、持続的なリソース供給が重要。原資となるTWTPは放置すると摩耗する性質があり、その維持・拡大に向けたマネジメントが求められる。

TWTPは放っておくと摩耗してしまう

熱量を維持するのは容易ではない

最初は大きなWTPが存在していたとしても、時間が経過したり、課題解決の成果が実感しにくい状態が続いたりすると、徐々にその熱量は薄れていってしまう。

人口減少によって摩耗はさらに加速する

人口減少により、WTPを持つ人の母数自体が自然に減少していくため、個々のWTPが維持できていたとしても、その総量であるTWTPは減ってしまう。

構造的アプローチを支え続けるためには、TWTPマネジメントが必要

① ソリューションをつくる

② WTPの顕在化率を高める

③ 解決主体による回収率を高める

TWTP維持・拡大のアプローチ ①ソリューションをつくる

TWTP維持拡大のためのアプローチの1つは、ソリューションをつくることである。TWTPを投資的寄付として活用し、課題解決のソリューションを開発することで、新たなWTPを喚起する。

事例

SAVE THE VOICEプロジェクト

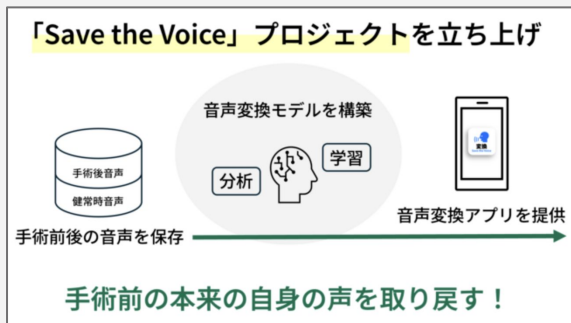


取り組みの概要

咽頭がん等の手術で声帯を失った方々が、自身の本来の声をAIモデルによって取り戻す（音声再獲得）ためのアプリ開発プロジェクト

投資的寄付が果たした役割

- 本事例では、音声変換モデルのプロトタイプを改善するためのデータ蓄積やシステム開発にかかる費用をクラウドファンディングで募集。
- ソリューションが形になることで「自分も使ってみたい」といった新たなWTPが喚起されている。



出典：[失ってしまった声をもう一度 | 音声変換アプリの普及・実用化へご寄附を](#)（READYFOR）

TWTP維持・拡大のアプローチ ②顕在化率／③回収率を高める

TWTP維持拡大のためのアプローチとして、WTPの顕在化率を高めることや、解決主体による回収率を高めることが考えられる。

事例

伝統的な古民家を後世に保存するための取り組み

アプローチ② WTPの顕在化率を高める

具体的な取り組みの例

- 古民家の茅葺き屋根の葺き替えなど、保全プロセスに参加する場を提供することで、WTP顕在化の機会をつくる
- 古民家で行われる文化的研究をオンラインで支援できるメンバーシップを構築するなど、遠方の人もWTPを顕在化できる選択肢を提供する

アプローチ③ 解決主体による回収率を高める

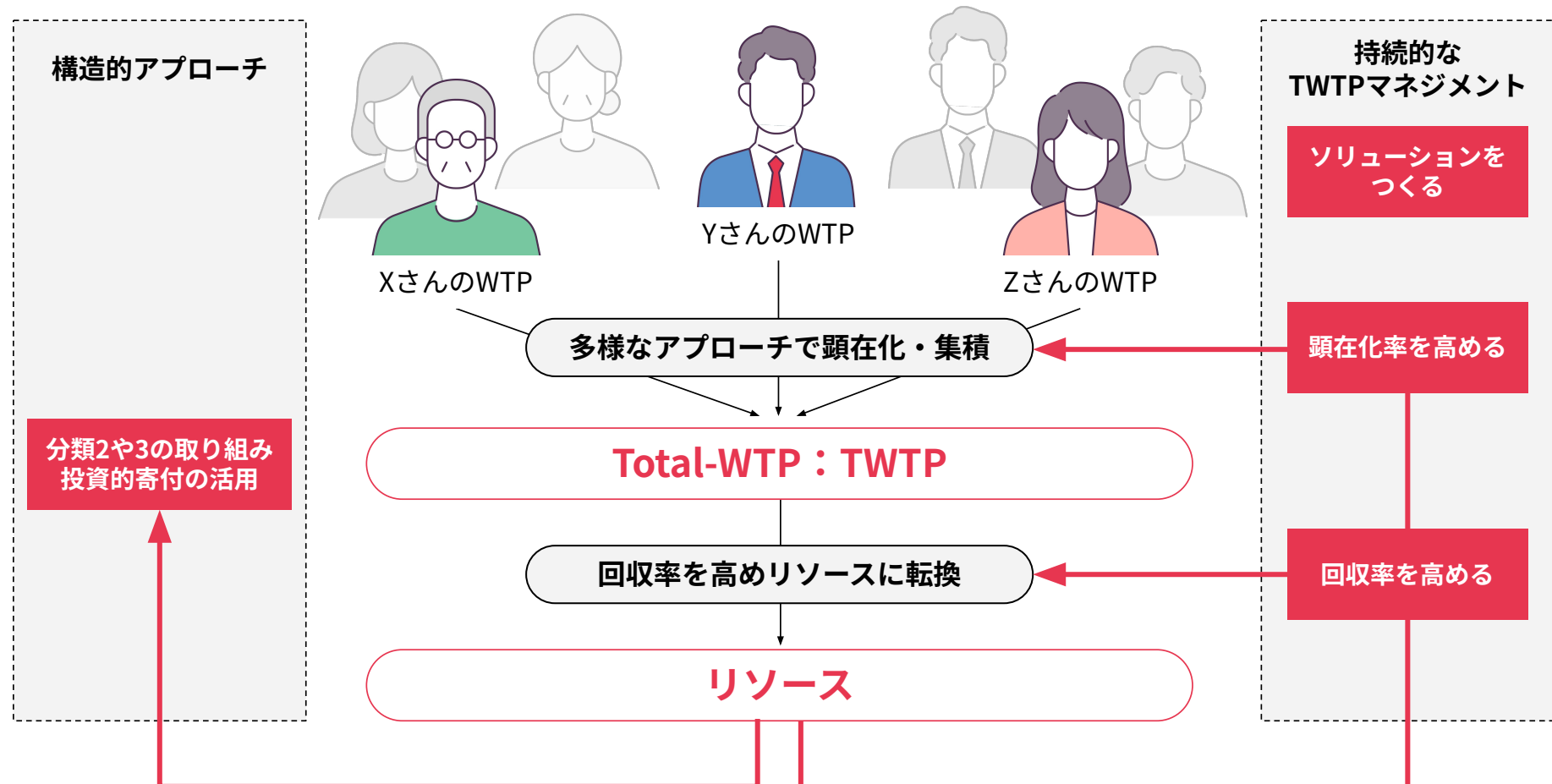
具体的な取り組みの例

- 古民家を目的に地域を訪れた人のWTPが、周辺の飲食店や宿泊施設に流れてしまう状態を防ぐため、売上の一部を古民家の修繕費に充当するような仕組み、商品などを企画する

Step2のまとめ

課題解決に構造的に取り組み、持続可能にリソースをマネジメントするためには、以下の2点が重要。

- ・ 構造的アプローチ：プロセスの上流工程を投資的寄付で支え、分類2や3の取り組みを増やすこと
- ・ TWTPのマネジメント：ソリューションをつくることやTWTPの顕在化率・回収率を高めること



Step3 行政・ビジネスと連携し、より大きな課題を解く

ビジネスや行政の活動と接続したり、異なるWTPと組み合わせたりして、コレクティブな形で根本的な課題解決に取り組み「課題の谷」を埋めていく方策について、整理する。

Step1

WTPを課題解決のリソースとして活用する

個別のWTPがバラバラに散在した状態では、課題解決には繋がらない恐れがある。WTPを顕在化・集積させ、課題解決のためのリソースに転換して活用する。

Step2

課題解決に、構造的・持続的にアプローチする

「課題の谷」を埋めるための構造的アプローチと、それを支える持続的なWTPのマネジメントに取り組む。

Step3

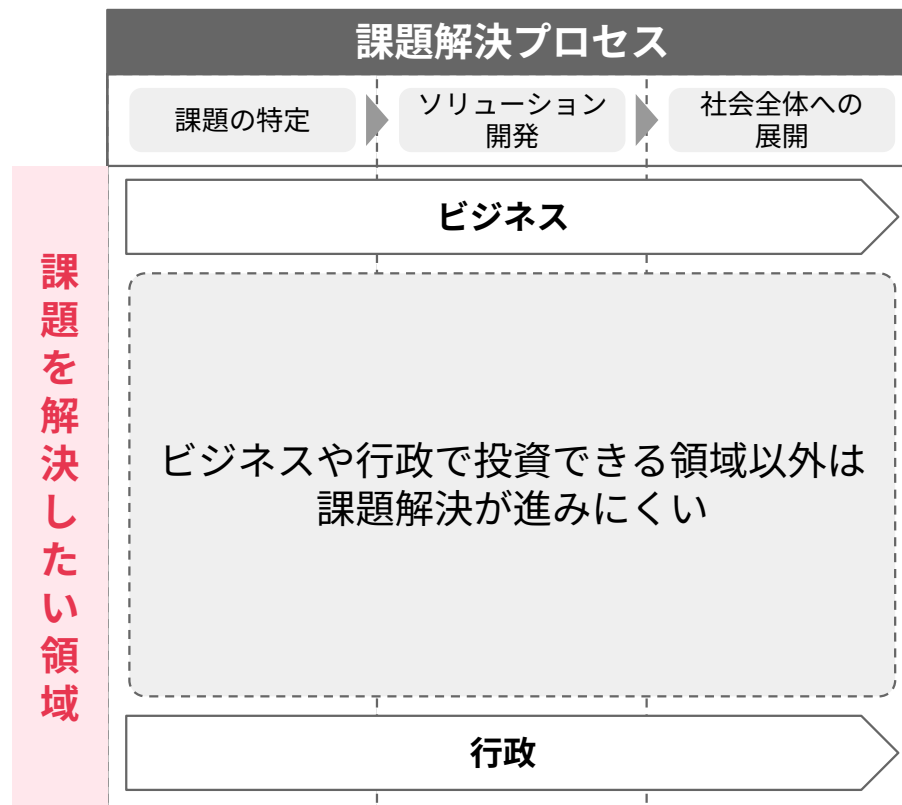
行政・ビジネスと連携し、より大きな課題を解く

ビジネスや行政の活動と接続したり、異なるWTPを組み合わせたりして、コレクティブな形でより大きな課題を解いていく。

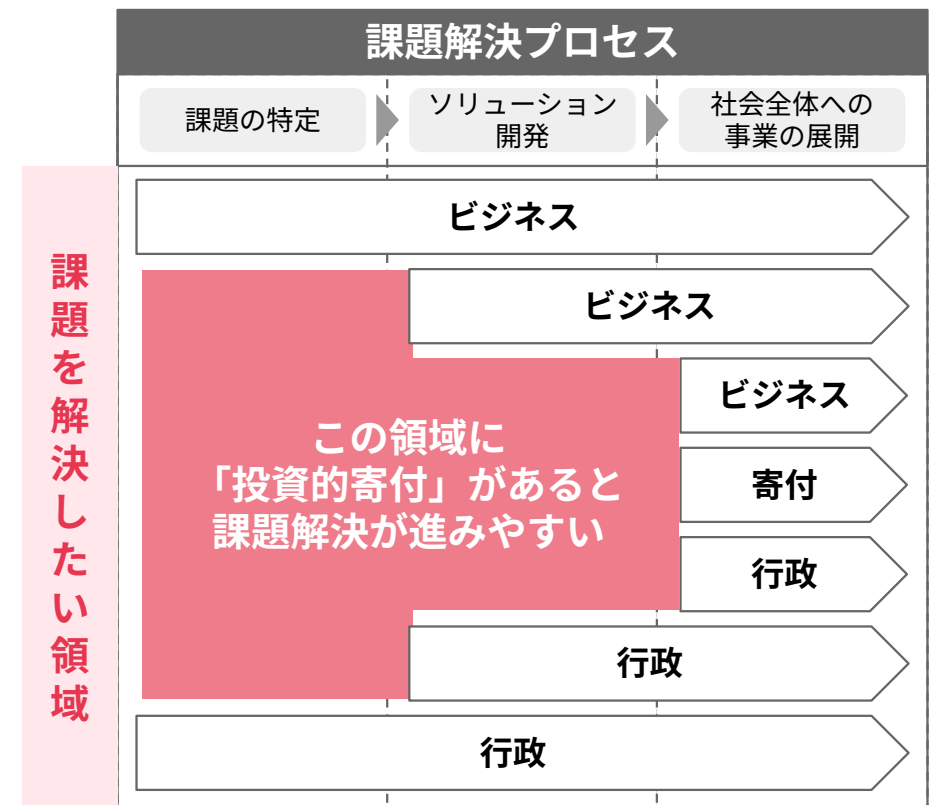
寄付を呼び水として行政・ビジネスと接続し、より大きな課題を解く

単一のTWTPを活用するだけでは解けない大きな課題でも、行政やビジネスと接続することで解ける可能性がある。行政は公平性・普遍性、ビジネスは経済合理性の観点で、初期は投資が難しい領域であっても、投資的寄付で上流工程を支えることで、ビジネス・行政と接続することが可能になる。

現状



目指す状態

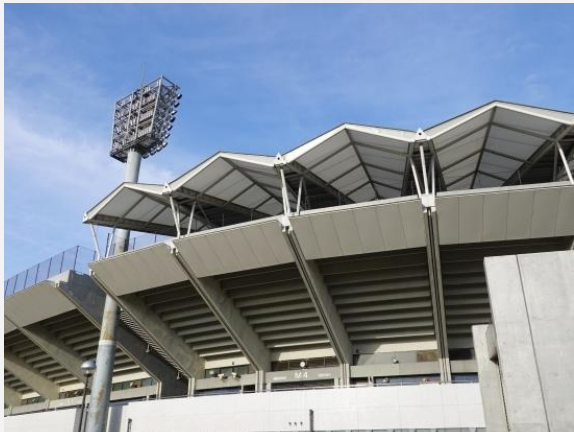


出典：[社会課題解決の総量を増やす「投資的寄付」](#)（READYFOR note）

行政のリソースと接続する：Public leverage

プロジェクトの初期段階では、公平性・普遍性の壁により行政の関与が難しい場合も、様々なWTPが顕在化されていくことで「みんなの課題」として認知され、公益性が認められた部分の負担を行政が担う可能性が生まれる。

事例 スポーツ活性化のためのアリーナ建設



最初は「一部の人の課題」

特定競技のためのアリーナ建設は、あるチームやファンなど一部の人の課題に見えるため、公平性を重んじる行政は関与しにくい。

WTP顕在化と外部経済の創出

ファンが寄付や周辺での飲食・宿泊等でWTPを顕在化させると、地域への経済効果や市民の誇りといった外部経済が生まれる。

公益性が示され「みんなの課題」に昇華される

外部経済が生まれ、取り組みの公益性が示されると、アリーナ建設は「一部の人の課題」から地域の「みんなの課題」に昇華される。

行政のリソースと接続

行政は「みんなの課題」として、アリーナ建設に対し予算を措置したり、優遇措置を行うことを正当化できる可能性が生まれる。

画像出典：写真AC

ビジネスのリソースと接続する：Business leverage

プロジェクトの初期段階では、経済合理性の壁により動けなかったビジネスセクターも、様々なWTPが顕在化することによって、経済合理性が満たされ、その一部をビジネスが担う可能性が出てくる。

事例 地域商店街の再生



最初は経済合理性の壁で、関与が難しい

人口減少が進む地域商店街の開発は、経済的リターンを期待しにくく、金融機関から資金を調達するハードルが高い。

WTP顕在化とリターンを求めない（譲許性のある）資金の投入

地域を愛する人が、寄付として譲許性のある資金 *1 を提供し、空き店舗の改装やアートの設置など、商店街の魅力化が進む。

商店街の価値が向上し、経済合理性がある状態に変化する

寄付により初期投資が賄われるとともに、人流増加によって商店街の価値が向上し、経済合理性がある状態へと変化する。

ビジネスのリソースと接続

経済的リターンが期待できる状態になると、新たな店舗の出店などに対して融資や出資を受ける可能性が高まる。

*1 譲許性のある資金：市場の一般的な条件よりも受け手に有利で寛大な条件になっている資金

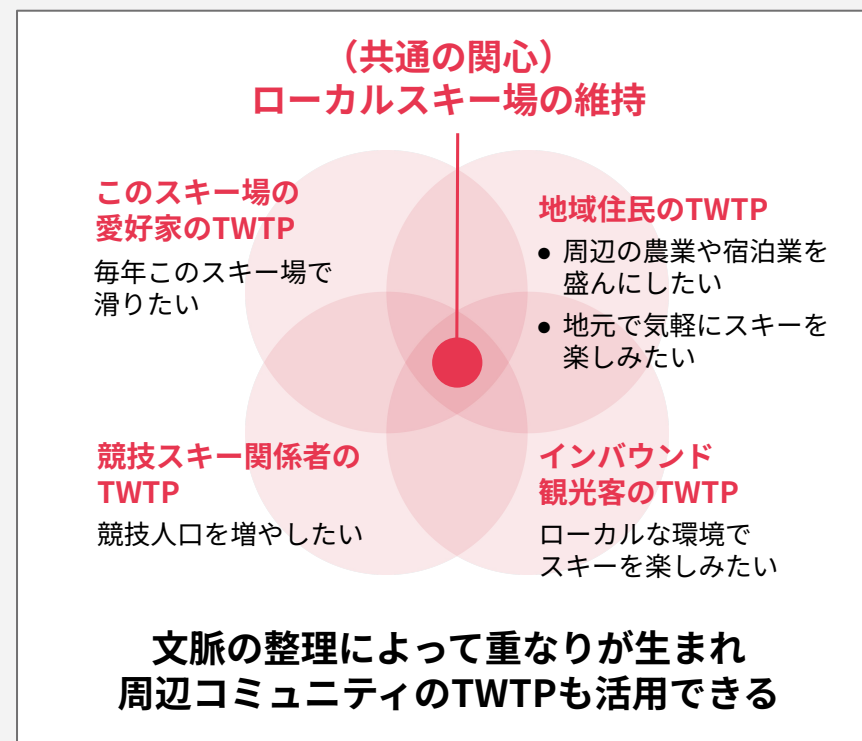
画像出典：写真AC

文脈を整理して、異なるコミュニティのTWTPを組み合わせる

異なるコミュニティであっても、それぞれにあった文脈を整理することでTWTPを重ね合わせられる場合がある。以下の事例では、それぞれ別のTWTPが「ローカルスキー場の維持」という課題へのアプローチについて、それぞれの文脈でTWTPを重ねられる可能性を示している。

事例

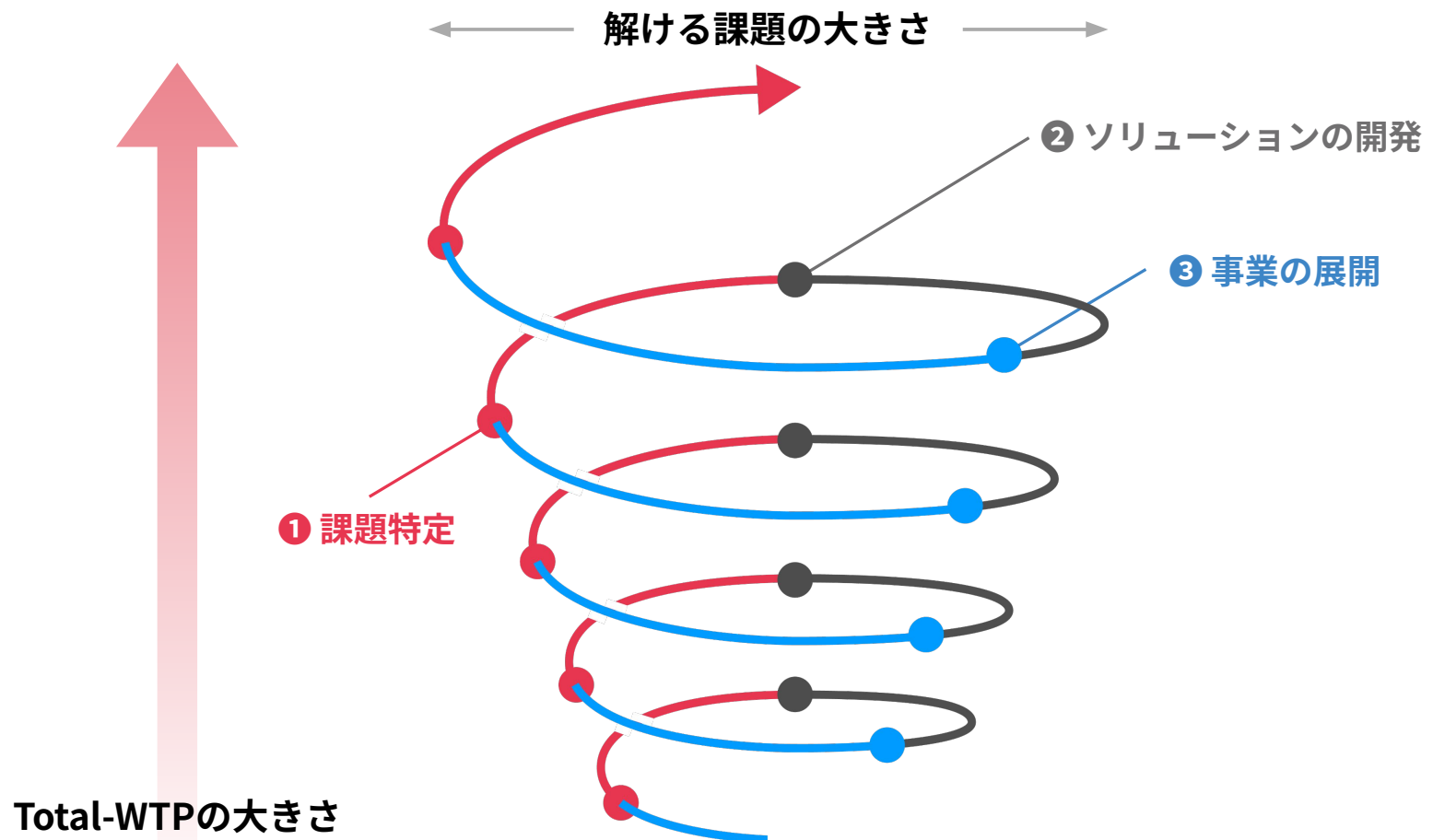
「小規模スキー場の維持」で組み合わせられる様々なコミュニティのTWTP



螺旋状にTWTPを増やし、解ける課題を大きくする

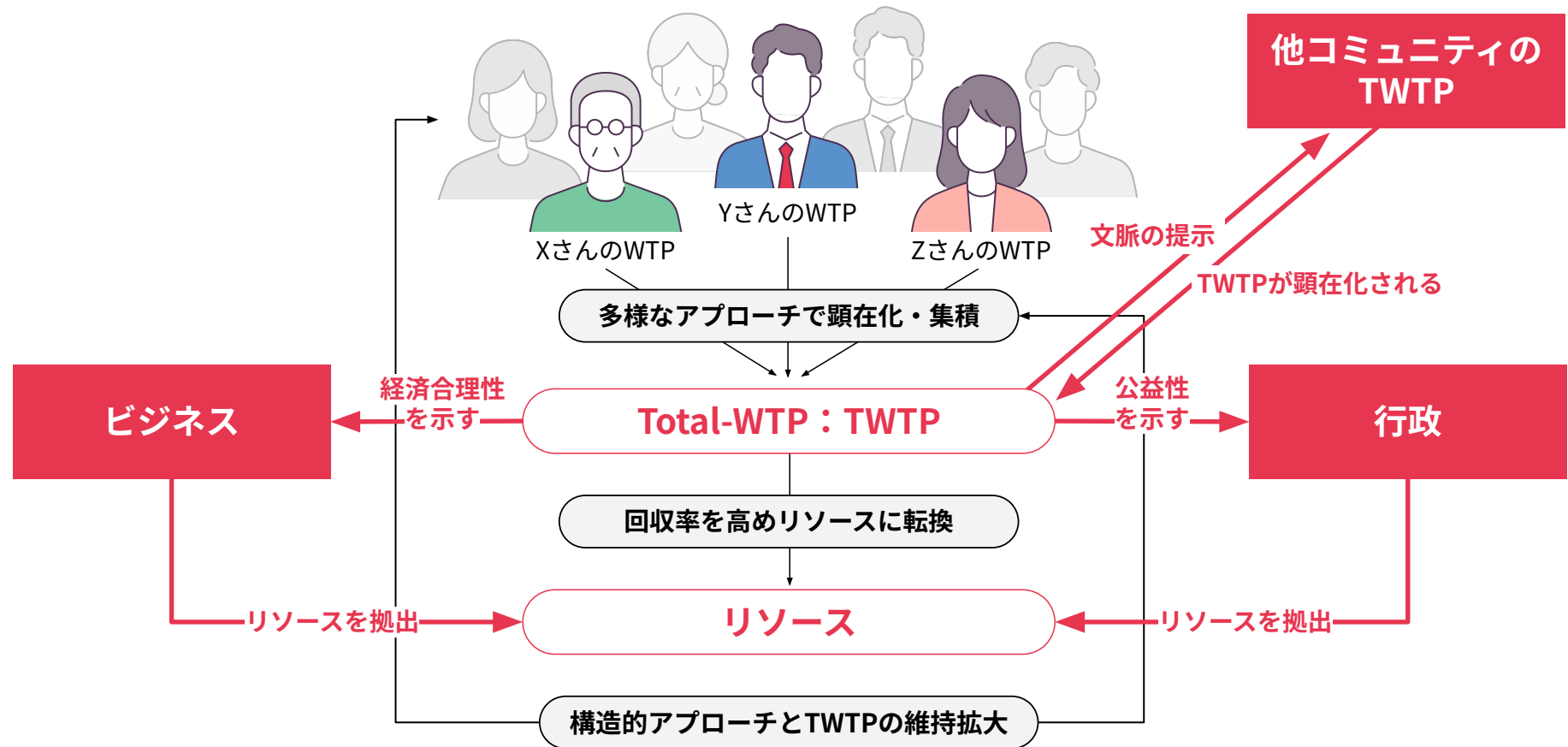
初めから大きな課題を解くことは難しい。

初期状態のTWTPに基づいた課題解決から始まり、TWTPの拡大や、ビジネスや行政、他のコミュニティを巻き込みながら、次第に解ける課題を大きくし、最終的に課題の根本的解決を目指す。



Step3のまとめ

初期のTWTPに基づいて寄付の資金を活用することで、公益性や経済合理性を示し、行政やビジネスのリソースと接続できる。また、文脈を整理することで、他コミュニティのTWTPも活用できる。



02

個人の支払意思の集約と社会の効用の最大化



本章の問題意識：個人のWTPと、社会全体の効用の一致

本章の問題意識

個人のWTPは、個人の問題意識が起点になり、機動的かつ柔軟に力を発揮する性質がある。一方で、WTPを集積して活用することが、必ずしも社会全体の効用の増大と一致するわけではない。

個人の自由な意思の発揮と、社会全体の効用の最大化とのバランスについて考え、「課題の谷」をできるだけ埋めていくには、WTPが持つ性質と、それを顕在化して課題解決につなげるエコシステムの性質の双方を分析し、対応を検討する必要がある。



①WTPの性質に起因する課題

②エコシステムの性質に起因する課題

①WTPの性質に起因する課題

個人の自由な意思に基づくWTPは、社会全体の問題点に対して完全情報を得ているわけではなく、顕在化しやすい対象に偏りが生まれる。また、それぞれの人の資産状況に差があり、支払金額が大きい人のWTPがより顕在化されやすくなる。

①ー1

社会全体の問題点の完全情報がない

例えば地球環境や構造的貧困、基礎科学といった自分との心理的・時間的な距離が遠く、結果が出るまでの経路が長いマクロな課題に対するWTPは顕在化しにくく、逆に、身近で分かりやすい課題に対するWTPが顕在化しやすい。

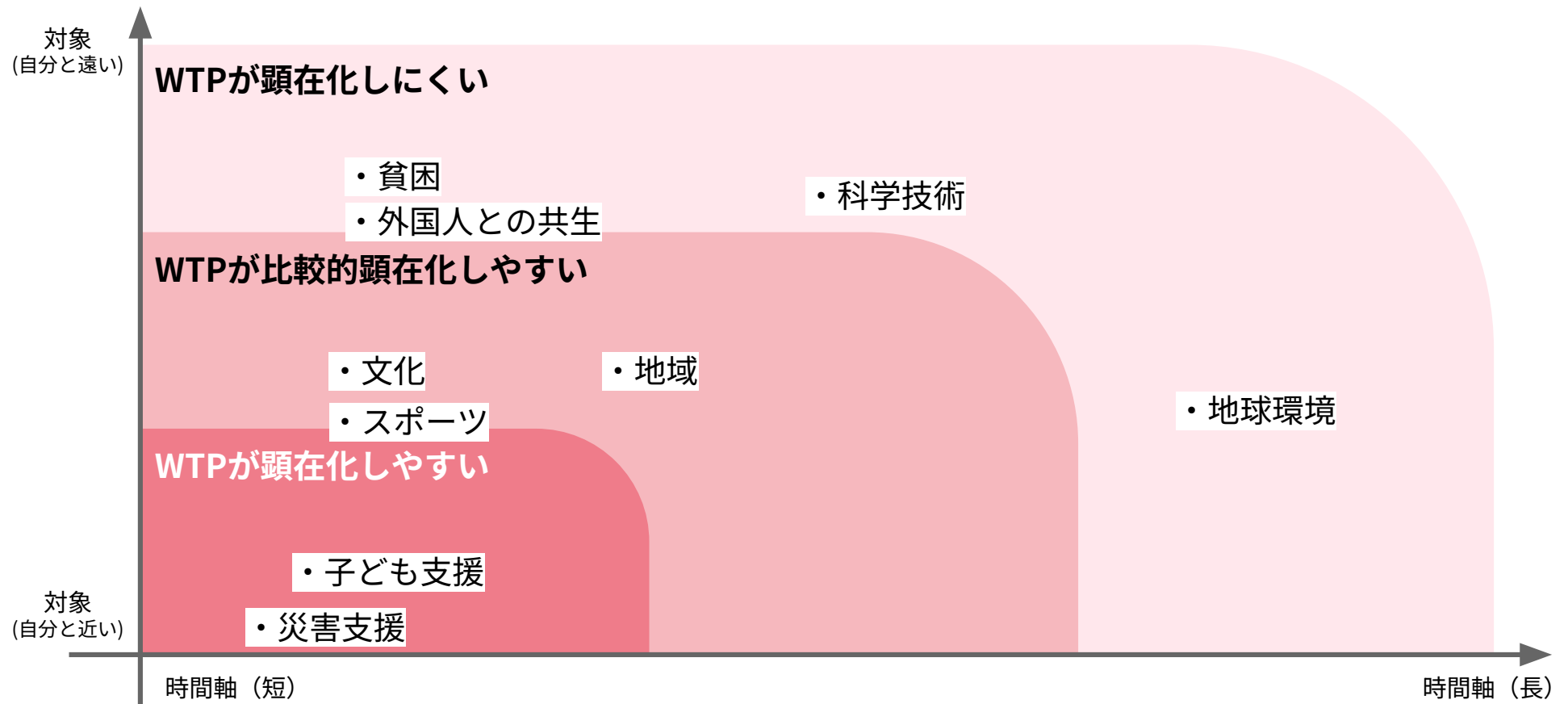
①ー2

支払える金額が大きい層のニーズに偏る

支払える金額が大きい層が関心を持つ領域に対してソリューションが集まり、WTPが顕在化しやすくなる。一般の人々のWTPに対応するソリューションは相対的に集まりにくくなる。

①ー1. 社会全体の問題点の完全情報がない

WTPは、対象が身近で共感を呼びやすく時間軸が短いものほど顕在化しやすく、対象との距離が遠く結果が出るまでの時間軸が長いものほど顕在化しにくいのではないか。



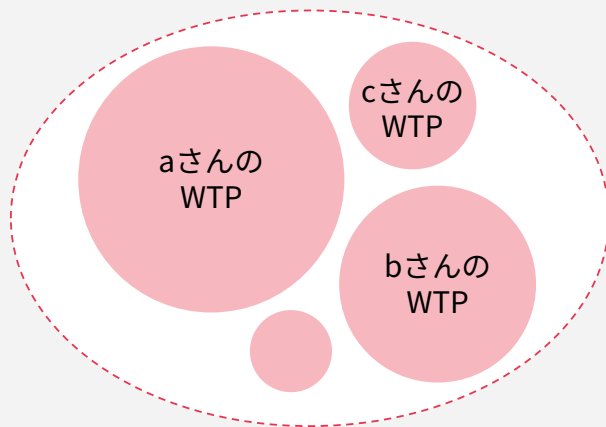
社会課題の全体像について質の高い情報提供が必要ではないか。

①ー2. 支払える金額が大きい層のニーズに偏る

WTPの大きさは支払能力の大きさと相関する。支払能力が大きい層のニーズに対してソリューションが集まりやすい。そのため、社会全体の課題について情報提供をするなど、質の高いゲートキーパー機能が求められる。

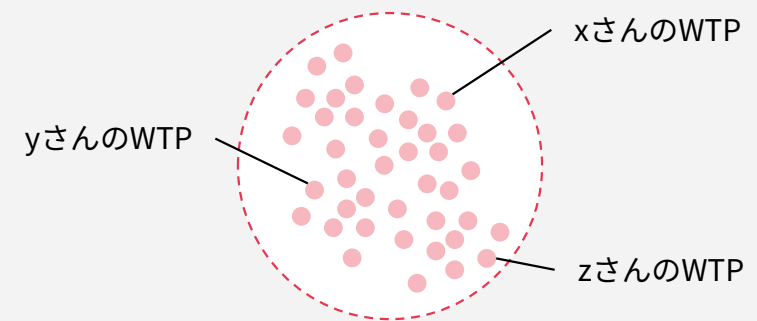
支払える金額が大きい層のニーズ

一人ひとりが支払える金額が大きいので
TWTPが容易に大きくなり、課題解決が進みやすい



支払える金額が小さい層のニーズ

一人ひとりが支払える金額が小さいので、
TWTPが小さく留まり、課題解決が進みにくい



多様で細かな取組についても集約して社会全体の意思を可視化するような、
質の高い情報提供が必要ではないか。

②エコシステムの性質に起因する課題

WTPを顕在化し、課題解決につなげるエコシステムの性質についても整理する。資金提供者とプレイヤー間の情報の非対称性や、分類2や分類3のような構造的アプローチの不足が、社会全体の効用増大を阻む要因となっている。

②ー1

情報の非対称性

資金提供者と課題解決プレイヤーの間に情報の非対称性が発生。資金提供者の期待に応えられないリスクが存在する。

②ー2

分類2や分類3のような 構造的アプローチの不足

寄付を原資とした課題解決の仕組みでは、スタートアップエコシステムなどとは異なり、ソリューションを研ぎ澄ますプロセスに対する経済的インセンティブが働きにくい。そのため、仕組みづくり（分類2）や社会システム変革（分類3）といった大きな課題解決に挑む取り組みが自然には増えにくい傾向にある。

②ー1. 情報の非対称性

資金提供者と課題解決プレイヤーの間には、情報の非対称性が発生するため、資金提供者の期待に応えられないリスクが存在する。資金提供者ごとの多様なWTPに沿った結果が返ってくる仕組みが必要ではないか。



生じる問題の例

- 資金提供前：資金提供者は、不適切な取り組みにお金が出るリスクを回避しきれない
- 実行中：十分なチェック機能が働かず、非効率な資金活用や進捗上の課題が見過ごされやすい
- 実行後：資金提供者のWTPは多様であり、期待に合わせた成果創出やその評価・フィードバックが難しい

実行者の適格性やプロジェクトの実効性を、仲介者となるプレイヤーが担保し、結果を資金提供者に伝える機能が必要ではないか。

②ー 2 . 分類2や分類3のような構造的アプローチの不足

一般のビジネスの場合、ソリューションを磨き上げる経済的インセンティブが受益者・資金提供者双方に存在している。寄付エコシステムにおいては、そのインセンティブが働きにくい。結果として、課題の根本的解決を目指す取り組みが増えにくい。

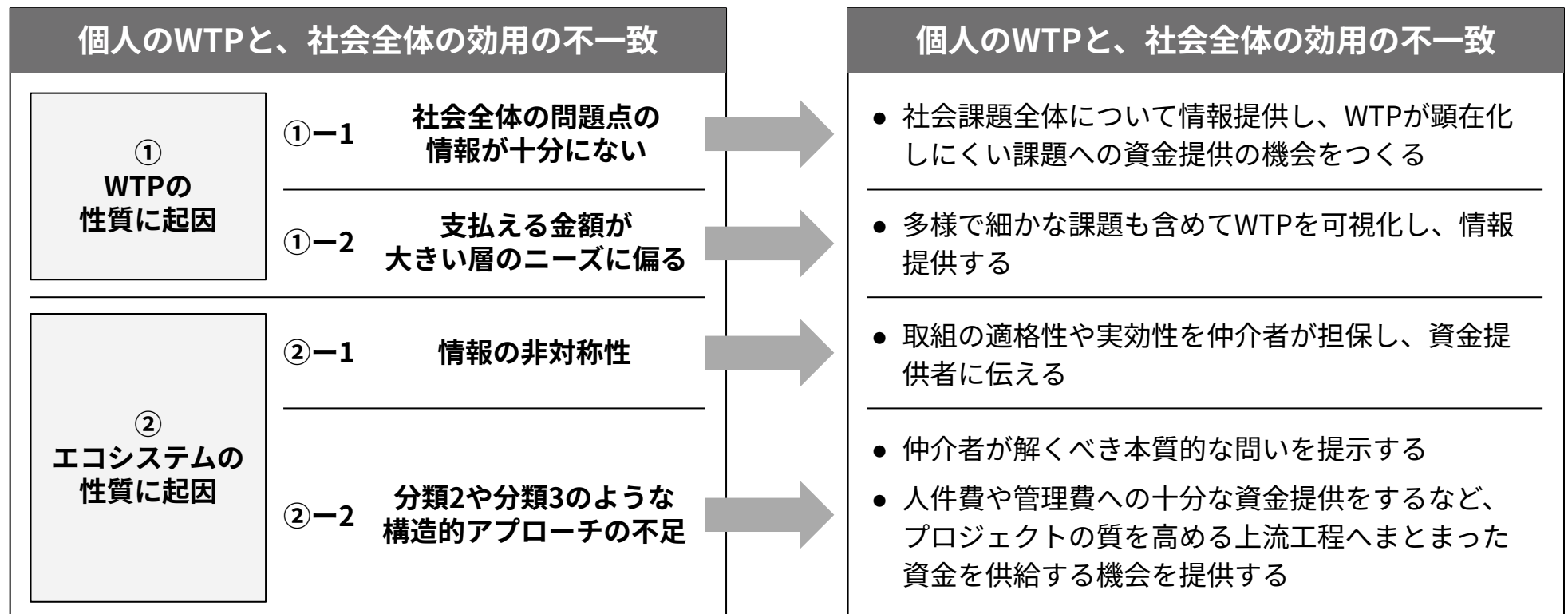
	ビジネスの場合	寄付エコシステムの場合
受益者の視点	顧客自ら対価を支払うので、より質の高いソリューションに需要が集中する。結果として、質の低いソリューションは淘汰される。	無償でのサービス提供が中心であり、受益者側は質が高くないサービスであっても受け入れがちであり、競争原理が働きにくい。
資金提供者の視点	金融機関やVCにとって、良質なソリューションほど、大きな経済的リターンが期待できる。そのため、ソリューションの質の向上に対するガバナンスが働きやすい。	ソリューションの質の向上と経済的インセンティブが結びついておらず、ガバナンスが働きにくい。 調査を通じたソリューションの磨き上げよりも直接的な資金分配を望む資金提供者も多い。
プレイヤーの視点	ソリューションを磨き込む経済的インセンティブが 大きい	ソリューションを磨き込む経済的インセンティブが 小さい

仲介者が、解くべき本質的な問いを提示することや、課題解決の質を高める上流工程に資金が供給されやすくなる情報提供が必要ではないか。

まとめ

WTPの性質上、個人のWTPと社会全体の効用が必ずしも結びつかない。社会全体の効用を高めていくには、その点を補うエコシステムを形作ることができるのではないかと。

WTPとエコシステムの性質によって、個人のWTPと社会全体の効用は必ずしも一致しない



参考文献

p.8 TWTP顕在化のアプローチ①自分事としての文脈設計

- READYFOR 「小平市が災害派遣ネットワークに参加、市民の命と尊厳を守る！」
<https://readyfor.jp/projects/mintore-kodairacity>

p.10 TWTP顕在化のアプローチ③根本解決に向けた仕組みの提示

- 写真AC
<https://www.photo-ac.com/>

p.12 TWTPの回収：活用可能なリソースへの転換

- READYFOR note 「Willingness to Pay 個人の想いが投資的寄付の源泉になる」
<https://blog.readyfor.jp/n/n38e8cb4fd462>

p.15 課題解決に構造的にアプローチする：課題解決の3分類

- READYRO note 「本当に、寄付が社会を変革する日は来るか」
<https://blog.readyfor.jp/n/n28ade4fe5cd0>

p.16 課題解決プロセスの設計

- 馬田隆明 氏ブログ 「非営利組織のプロダクト・ソサエティ・フィット (PSF) とそのジャーニー」
<https://blog.takaumada.com/entry/product-society-fit-for-non-profits>

p.17 投資的寄付の必要性

- READYRO note 「「投資的寄付」～社会課題の根本解決に向けた戦略的投資」
<https://blog.readyfor.jp/n/n10926558ca6b>

p.19 TWTP維持・拡大のアプローチ①ソリューションをつくる

- READYFOR 「失ってしまった声をもう一度 | 音声変換アプリの普及・実用化へご寄附を」
<https://readyfor.jp/projects/SavetheVoice>

p.23 寄付を呼び水として行政・ビジネスと接続し、より大きな課題を解く

- READYRO note 「社会課題解決の総量を増やす投資的寄付」
<https://blog.readyfor.jp/n/n700efa135744>

p.24 行政のリソースと接続する：Public leverage

- 写真AC
<https://www.photo-ac.com/>

p.25 ビジネスのリソースと接続する：Business leverage

- 写真AC
<https://www.photo-ac.com/>

READYFORインパクト研究所

構造的な課題解決に向けた、 個人の支払意思（WTP）活用と エコシステムの形成

アプローチの提案

企画・編集

瀧島 勇樹 READYFORインパクト研究所 代表・シニアフェロー

執筆

中込 まどか READYFORインパクト研究所 フェロー

READYFORインパクト研究所

〒102-0084 東京都千代田区二番町11-7 住友不動産二番町ビル6階

<https://impactlab.readyfor.jp/>

本資料の無断転載を禁じます。

2026年8月発行